

教科実践レポート

✿見方考え方をはたらかせ思考を深める授業づくり✿

全学年 音楽「合唱」(表現・歌唱)

つどい祭に向けて各クラスで合唱に取り組む。課題曲は各学年の教科書副教材から選択、自由曲は合唱リストより各クラスで選択した。課題曲は指導要領の目標を取り入れ授業としてカリキュラムを組み進めた。

《研究実践のポイント》

合唱というひとつの纏まった音楽を創り上げるために以下のことを行った。

- ① 曲の創意工夫を行うための楽譜の読み取りを行う。
- ② ①の楽譜の読み取りの中で見つけた根拠をもとに感性と照らし合わせ対話活動を行い、合唱曲を創り上げる。
- ③ ①②の活動の中で協力することの大切さやお互いを思いやる心を育む。



1. 音楽科の見方考え方

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付ける。

- ① 音や音楽を形づくっている要素を理解できるようになるために基礎知識の定着を行う。
- ② 音楽に対する感性が音や音楽を形づくっている要素と関連していることに気づき、感性に対する根拠を探し出せるようにする。

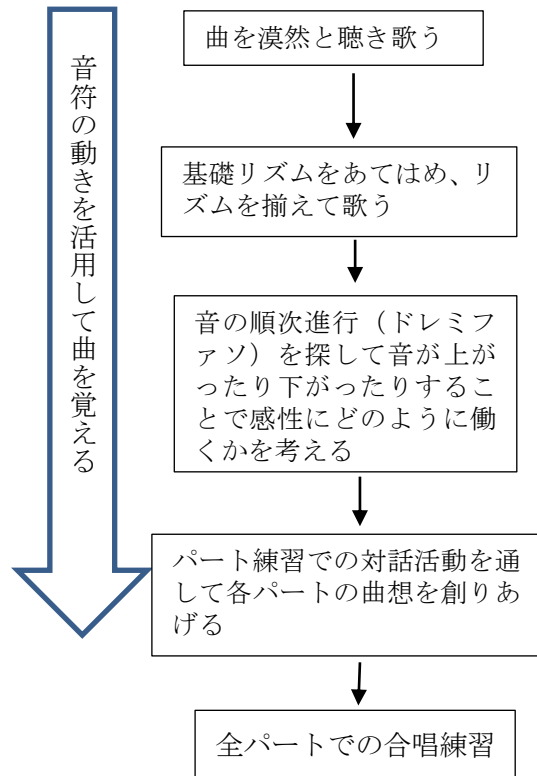
2. 単元ゴールの設定

つどい祭に向けて様々な要素に着目し、合唱を成功させよう。

3. めあての設定

1	リズムの倍加半減を使ってリズムを読み取ろう	5	様々な発声方法を体験しよう
2	1拍分のリズムをみつけて分割し、合唱に生かそう	6	言葉の発音に着目し発声しよう
3	順次進行をみつけて音程を取り表現に生かそう	7	アカペラで歌ってみよう
4	各パートで創意工夫し歌唱活動しよう(3時間)	8	つどい祭に向けて合唱リハーサルをしよう

4. 合唱に向けての曲の読み取り計画



5. 手立て

- ① 8分音符4つを使って作ることで基礎リズムに言葉をあてはめ活用する学習を1学期より行った。
- ② リズムを分割して捉える授業を1学期に行った。
- ③ 生徒は拍子を捉えることが難しかったためアカペラでの歌唱活動の中で拍感を捉える練習を行った。
- ④ 楽譜上で音階(ドレミファソラシド)の配列について学習し、1学期に音を読むテストを行った。
- ⑤ 楽譜上の音符の塊が順番に進んでいるか、或いは跳躍しているかを見つける学習を1学期に行った。
- ⑥ 様々な発声法を提示し、生徒自らが音楽表現を選択できるように技能指導を行った。

成果と課題(成果○ 課題●)

- 基礎リズムの活用のなかで、生徒同士の教え合う姿が見られた。
 - 伴奏に乗ってなんとなく歌うのではなく、アカペラで指揮を見て主体的に拍子を取りながら歌う中で、生徒が拍子を感じながら歌うようになった。
 - 楽譜の中の旋律の上がり下がり動きを読み取り、生徒一人一人が創意工夫して歌唱活動を行い、これらを用いて対話活動を通して合唱曲を表現豊かに創り上げることを目標に授業を行ったが、生徒は楽譜を必要とせず、歌詞だけを提示するように訴えてきた。
 - 生徒は楽譜を見る習慣がなく、音の高低を耳で覚えて歌っているために正確な音程での歌唱が難しい上に、曲を覚えるために、たくさんの時間を費やしている。
- ※振り返りに使用したキャリアシートでは、「合唱を行って学んだことや感じたこと」について「音程を取れるようになると声が大きくなる」や「自信がつくつかないかで、声の大きさが変わると思いました。」という声があった。
- 音楽の授業内では、曲を覚えることが困難であったため、各クラスで給食の時間を使い曲を聴く取り組みや、放課後の合

唱の練習を行い、曲想なども創意工夫して担任を中心に歌唱練習を行った。このことにより生徒の団結力が深まったと考える。

※キャリアシートの「今後の生活や勉強に生かそうと思うことや大切にしたいことは？」の項目では、「合唱もみんなで力を合わせて歌うので、生活や勉強もみんなで力を合わせていくことを大切にしたい。」という意見があった。



6. まとめ

合唱活動は、自分自身の体を楽器として音を出すため、誰もが取り組みやすい音楽活動である。しかし音程を自分自身で取らなければならず反対に大変難しい音楽活動でもある。今年度は、楽譜を読む指導が充分でなかったために曲を覚えることにたくさんの時間を費やし、音程を取ることにしんどさを抱える生徒も多く見られた。また楽譜を見る習慣がないことから見方考え方の主題となる音楽の要素を視覚化することが難しく、これらの根拠をもとに対話活動を行い、創意工夫し音楽性を豊かにすることに難しさがあった。しかし、つどい祭に向けての合唱の授業を終え、3学期に入って卒業式の式歌の練習を行う中では、4小節ごとのリレー歌唱練習をスムーズに行うことができ、楽譜を見るのが定着してきたように思われる。

次年度のつどい祭での合唱活動に向けて、日々の授業の中で繰り返し、簡単な楽譜の読み取り等を取り入れ、生徒を楽譜に慣れさせ、曲を覚える時間の短縮を試み、曲の創意工夫に費やす時間を確保したい。